

女性差別について

桑野小学校

六年

安永 やすなが

ゆりか

（敬称略）

私は、女性や男性、いろいろな人たちを差別することは絶対してはいけないと思います。

私は、以前、友達や家族に「女の子だから」と差別されたことがあったと気付きました。偏見や差別のことを学習して「女の子だから、男の子だからといって差別される理由にはならない」ということを学んだからです。以前、友達と買い物に行き、

「このキーホルダーのキャラ好きなんだ。」
と言ったら、

「そのキーホルダー、男の子っぽいよ。そのキーホルダー、ランドセルに付けて学校に行ったらみんなに笑われるんじゃない？」と友達は少し笑いながら言いました。私は「そんなにこのキーホルダー男の子っぽいかな。友達がいいうならやめておこうかな。」と思い、少し悲しくなりながら買うのをやめておきました。

他にもスポーツのことでも同じようなことがありました。私は野球やサッカーを体験してみたいという思いがありました。一回してみたいなと興味があつたからです。でも、友達は

「バスケットやバレーがいいんじゃない？」と言いました。私は、どうしてそんなことを言うのかと考えてみました。確かに、私のクラスでは男の子は野球やサッカーをしていて、女の子はバスケットボールやバレーボールをしています。その友達はバスケットボールやバレーボールを女の子っぽいスポーツだと思っていたんじゃないかと思っています。

また、おばあちゃんに誕生日プレゼントで筆箱を二つ買ってもらったことがあります。とても嬉しかったけど、二つともピンクやうすいむらさきなどの色でした。私は「本当は、シンプルで黒色系がよかったんだけどな。女の子はこういうかわいい系が良いと思ってるのかな。」と心の中では思っていました。

私は、偏見や差別は無意識に日常生活の中でしてしまうことがあるんだなと思いました。キーホルダーのキャラクターは、男の子でも女の子でも好きなものを選べばいいと思います。スポーツもほとんどの競技が男の子も女の子もしています。プロとして活やくする女性のサッカー選手や男性

のバスケットボール選手もいます。みんなが性別に関係なくしてみたい興味をもったスポーツをしたらいいと思います。今度、同じように「女の子だから」「こっちの方が女の子っぽい」と言われるようなことがあったら、「私はこのキャラクターが好きだから。」や「女の子も男の子も関係ない。」など理由をつけて言おうと思います。その方が相手も「なるほど。」「確かにそうかも。」と理解してくれるのではないかと思っただけです。

私は、「女の子だから」と偏見や差別を受けて悲しい思いをしました。日常生活にあるちよつとした思い込みや偏見で、悲しい思いをしている人たちを増やさないように日常生活を振り返ることが大切だと考えています。